

Libella

# りべら

持続可能な未来をみんなで作る

vol.162  
2023.6

## 2022年度 あおぞら財団 年次報告

あおぞら財団年次報告2022年度

2022年度 総括 ..... 1

1.「環境・福祉・防災・文化・生業」の視点から、  
西淀川の地域再生に取り組む ..... 3

2.公害の経験から学び、  
未来を創る市民を育てる ..... 7

3.公害経験を伝える  
国際交流 ..... 11

りべら VOL.162 2023.6

発行所：公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）  
〒555-0013 大阪府西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

## 2022年度 ご支援の御礼

お助けボランティアとしては、計7人の方からご支援いただきました  
インターン生は3人を受入れました。  
あおぞら財団の活動は多くの方からのご寄付・ご寄贈によって支えられています。  
みなさま、本当にありがとうございました。

### お助けボランティア（敬称略・順不同）

MOKU 佐々木 真弓  
渡辺 哲敬 岡村 裕成  
岡崎 久女 大崎 日和  
山下 晴美

### インターン生（敬称略・順不同）

森崎 結太  
森 夏子  
王 子常

## 賛助会員

● 2022年度（2023年3月末時点）  
（件数）

個人	112
学生	1
法人	14
団体	9

寄附・寄贈者（2022年4月～2023年3月 敬称略・順不同）

あおぞら市の皆さん	合同会社 城山	MOKU
浅井 真二	白神 加奈子	森山 正和
新井 健一郎	資料館募金箱	山崎 義郷
新井 真	大門 信也	山崎スチール株式会社
石塚 裕子	高田 研	山田 文
一柳 正義	谷 智恵子	除本 理史
伊藤 三男	タンDEM自転車 NONちゃん倶楽部	吉田 巖
巖 圭介	TKNara	吉村 良一
内田 寛	中島 晃	Y
逢坂 隆子	長野 晃	脇田 武利
大島 民旗	中村 昌史	鎌形 浩二
奥村 昌裕	西垣 幸代	その他 匿名1名
小田 康徳	新田 保次	
おやご防災かるた協力金	認定NPO日本都市計画家協会 (株)バード・デザインハウス	
柏原 愛子	旗野 季人	
金谷 邦夫	早川 光俊	
gooddo支援金 グッドウ(株)	林 美帆	
切刀 恵美子	林 衛	
黒坂 吉成	藤原 武志	
小杉 亮子	八丸 久美子	
鷺坂 長美	松村 暢彦	
櫻井 次郎	宮本 憲一	
澤田 佳宏	村松 昭夫	
清水 万由子		



1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978～1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

### 【あおぞらビル】

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」  
会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。  
午前：1,000円/午後：1,300円/夜間：1,300円/全日：3,000円  
【5F】西淀川・公害と環境資料館(エコミュージ)  
西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。(環境教育等促進法にかかる「体験の機会の場」認定施設)  
開館日 月曜日と金曜日(10:00～17:00)／要事前電話予約  
※いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

### 【会員・寄附募集】

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。  
● 賛助会員 会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。  
【年会費】個人：年一口5,000円、学生：年一口2,000円、  
法人・団体：年一口10,000円  
● 会費・寄附の振込先  
【郵便振替口座】記号・番号：00960-9-124893/加入者名：あおぞら財団  
【ゆうちょ銀行】金融コード：9900/店番：099/預金種目：当座  
/店名：0九九店/番号：0124893/名義：あおぞら財団  
【三菱UFJ銀行】歌島橋支店/普通/3728858/財)公害地域再生センター  
これまでご案内しておりました、三菱UFJ銀行と口座が変わっておりますので、ご注意ください。

## 2022年度

あおぞら財団では、まちづくり、資料館運営、研修、公害患者の保健国際交流といった多岐にわたる活動をしています。  
今号は2022年度年次報告書として、昨年度の事業の一部をご紹介します。

### 研究者からひとこと



藤江 徹

コロナが3年続いて、変わったこと。オンラインでの会議が増えた、日々の運動を心がけるようになった、料理が楽しくなった、など。写真は、西淀川区に住まう外国籍住民の方にインタビューした時のもの。大変な時期にも関わらず、異国でがんばってはる姿に元気をもらいました。誰かと、世界と、つながっていることを忘れずに精進したいと思います。



鎗山 善理子

西淀川でのアート・イベント「みてアート」をはじめて早いもので10年になりました。始まったころを思えば、ずいぶんと、みなさんに知っていただけるようになりました。継続は力なり。



谷内 久美子

私と年の近い大気汚染公害患者さんとお話する機会がありました。私が試験勉強をしている時、テレビを見ている時、本や漫画を読んでいる時、大気汚染が原因でぜん息の発作で苦しんでいた人がいた、そういったことを肌身に感じました。改めて大気汚染公害を伝えていく大切さを痛感しました。



## 2022年度 総括

あおぞら財団理事長  
村松 昭夫

2022年度は、後半から感染対策を徹底しながら対面での事業展開も行うようになりました。少ない職員のみで、地域や関係者の皆さんの協力を得て、①「環境・福祉・防災・文化・生業」から、西淀川の地域再生に取り組み、②公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる、③公害経験を伝える国際交流（情報発信・研修）の3本柱を中心とした事業を行いました。

右記①の事業では、2013年から始まったアートを活かしたまちづくり事業である「みてアート」（御幣島芸術祭）が10周年を迎え、当初は300名程度の来場者が、コロナ禍前の2019年には36拠点のべ3600名となり、コロナ禍を経た2022年も19拠点、約1000名まで回復し、2022年度は大野川緑陰道路を舞台に4名のアーティストによる屋外展示

も同時開催しました。また、「もと歌島橋バスターミナル」を活用した「西淀川アートターミナル（NAT）プロジェクト」も始まりました。公害患者らの療養生活に係る調査業務では、これまで明らかになっていなかった中壮年層の認定患者らの療養生活の実態、将来への悩みなど現制度での課題を把握することができました。

右記②の事業では、講師派遣・研修受入が増加し、龍谷大学清水万由子ゼミが、「アート」「映像」「防災」の3つ班に分かれて西淀川地域をフィールドにしたゼミ活動を行い、大阪公立大学大学院（吉田長裕先生の授業の一環として、西淀川のフィールドワーク等を行い、「公害を乗り越え、クリーンな街へ」をコンセプトに幅広いモビリティに配慮したまちづくり提案が行われました。また、資料の整理では、2022年



度までに大目録2888点、細目録61386点の整理が進み、資料集の作成では、資料研究会と編集委員会を重ねて、資料集作成を進めています。

右記③の事業では、コロナ禍で往來が困難な中、中国やベトナム等アジア地域の環境NGOとオンラインでのつながりを継続しています。財団運営の面では、財政的には基金からの取り崩しを最小限にするなど一定の改善が見られました。

## あおぞら財団の活動の 3つの柱

1.

「環境・福祉・防災・文化・生業」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む

2.

公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる

3.

公害経験を伝える国際交流

3ページからは、それぞれの分野から2022年度の主な事業成果を報告いたします。主な事業以外のすべての事業について網羅的に記載している詳細な事業報告は、あおぞら財団のホームページに掲載しています（<http://aozora.or.jp/johou>）。





# 中壮年層の公害患者の療養生活は？ 被認定者の実態調査

## 大気汚染公害被認定者の半数は非高齢者

大気汚染公害という過去のものと思われることが多く、30～50代の中壮年層の公害患者がいると話す驚かれることがあります。しかし、公害健康被害補償法（公健法）における大気汚染公害の被認定者のうち、半数は65歳以下の中壮年層です。

託を受けて、30～50代の被認定者を対象として、療養生活に就労等が与える影響や療養に関する情報へのアクセスに焦点を置いてヒアリング調査を実施しました。

## 三地域の公害患者30人に調査

公害患者さんの療養生活の実態を調べるにあたって、都市部・地方部による地域性をふまえて東京、大阪、倉敷において、年齢、症状が異なる公害患者30人にインタビュー調査を行いました。調査対象地域の地方公共団体に被認定者の抽出及び被認定者の協力依頼書の

## 子どもの頃の甚大な健康被害

今回の調査対象者の多くは、乳幼児でぜん息などの公害病を発症し、公健法の認定を受けています。公害病の重篤な症状が原因で、入院や病院内の院内学級への通学を余儀なくされる等、多くの公害患者は普通の学校生活を送ることができませんでした。また、夜中や明け方に、夜間診療を受

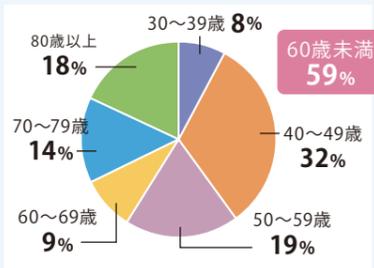
けたり、救急車で運ばれたりということが日常的でした。1990年代に入り、吸入ステロイドによる治療が一般的になり、ほとんどの人はぜん息の症状を安定させることができるようになりました。その一方で、大人になってから症状が急激に悪化したり、過去に服用した経口ステロイドの副作用が出ている人もいます。

## 就労に与える影響

今回調査した方のほとんどは就労されています。症状をコントロールできているため就労に支障はないという人が



呼吸ケア・リハビリテーション勉強会「楽らく呼吸会」一人ひとり呼吸の仕方についてアドバイスを受けて呼吸を楽に！



公健法の被認定者の年齢別の割合 (2022年3月現在。環境省データをもとに作成)

いる一方で、症状の程度や発症の条件等により就労に支障が生じている人もいます。特に、自営業や歩合制の仕事の場合には、症状によって仕事を休むと収入減や仕事の減少に直結します。正職員として働くことをあきらめ、非正規で働いている人もいれば、症状のために退職を促された人もいました。

より、被認定者の方々の療養生活の実態やニーズを把握することが出来ました。調査結果を踏まえて、患者会などの関係者と連携しつつ福祉事業や予防事業をよりよいものとするよう努めてまいります」との感想がありました。環境省および環境再生保全機構には、公健法制度の認知の向上、中壮年層の公害患者に届くようなきめ細やかな情報発信等に今回の調査で得られた知見を活かしていただきたいと思います。

## 調査結果を公害患者のQOL向上に活かす

今回の調査を通して、中壮年層の公害患者の実態が把握できました。環境省環境保健企画管理課保健業務室の黒羽真吾室長から「今回の調査に



肩まわりなど呼吸筋のストレッチ(楽らく呼吸会)

## 協力者からひとこと



上田 敏幸

大阪公害患者の会連合会

「僕には“ふつう”の状態というのがわからへんです。小さい時からぜん息で、呼吸がしにくいのが“ふつう”なんです」とため息混じりに答えたのは50歳の認定患者・H君。今回の調査対象ではありませんでしたが、「現役世代」の患者の多くが“ふつう”の状態がわからない、「このまま歳を重ねたらどうなるんやろ?」言いようのない不安を抱える人々への支援は乏しい。なんとかしなければ過半数の患者たちが救われないことになる。

広告

## 調理後の油を無料で回収します！

笑顔で回収いたします

50年以上の実績で、一滴残さず再び資源にリサイクル資源循環でSDGsに貢献します！

7 資源の循環

12 つぶやみ

17 気候変動の抑制

まずはお気軽にお電話ください！  
**TEL 06-6411-3457**

研究員 谷内 久美子

# 西淀川・公害と環境資料館 (エコミュージーズ)の活動

## 本活動がめざすこと

本活動では、西淀川・公害と環境資料館の日常的運営の継続、そのために資料の整理を進める、資料館を地域の人に知ってもらえるよう企画展を開催する、所蔵資料を広く知ってもらうため資料集の作成をおこなうことをめざして取り組んできました。

## 資料の整理を進めました

年度当初、未整理の資料が10箱ある、というところからスタートし、何とか、これを2022年度中に整理するこ

とを目標に目録作成をおこなってきました。年度末には、未整理の資料はほぼなくなり、あとは、新規で受け入れた資料や所在確認が必要なものと

みとなりました。2022年度に目録化した資料の点数は、大目録が302点、細目録は172点です(累計数は、大目録2888点、細目録61386点)。

## みてアートで企画展「絵画とポスターに見る西淀川公害とその地域」を開催

11月5日〜6日におこなわれた「みてアート2022」に

エコミュージーズが拠点として参加し、企画展「絵画とポスターに見る西淀川公害とその地域」を開催し、約360人が来館しました。絵画は、地元の画家・江波正寛さんから寄贈された油絵、エコミュージーズや西淀川を題材としたポスターなどです。はじめて来館する人には、エコミュージーズの存在を知ってもらえたよい機会となりました。



企画展「絵画とポスターに見る西淀川公害とその地域」みてアート2022

## 『エコミュージーズ活動報告書』第7号発行

エコミュージーズの活動をまとめて『エコミュージーズ活動報告書』を6年ぶりに発行しました。これは、2016年度〜2021年度の活動内容をまとめたもので、第7号となります。これに先立って、10月13日には、運営協議会を3年ぶりに開催し、資料館の活動について意見交換をおこないました。



『エコミュージーズ活動報告書』第7号(2022年12月発行)

## 資料集作成に向けて勉強会と編集委員会を重ねる

資料集作成に向けて、エコミュージーズ所蔵の資料を検討



資料集編集委員会で弁護士お二人のお話を聞きました

する勉強会を2021年10月から1回のペースでおこなっており、2022年度は計11回開催しました。専門家からなる「資料集編集委員会」は計5回開催しました。メンバーは小田館長、佐賀朝氏(大阪公立大学教授)、松岡弘之氏(岡山大学准教授)です。

## 公害資料館ネットワークの企画で動画制作

各地で公害を伝える組織・個人の交流・連携・協働をめざす「公害資料館ネットワーク」に引き続き参加しました。同ネットワークの「公害資料館バザール」という各館の紹介動画を制作する企画で、エコミュージーズの紹介動画を制作していただきました。今後は、エコミュージーズの魅力伝えるツールとして活用していきたいと思えます。

## やうかん

資料の整理を進め、みてアートでは多くの人に資料館に来館いただきました。引き続き、資料集作成に向けて作業を積み重ねていきます。

## 「公害資料館バザール」の動画



ロング版  
(約30分)



ショート版  
(約14分)

## 協力者からひとこと

日本のハンセン病の近現代史について研究しています。公害問題では、加害者一被害者のみならず、さまざまな立場の当事者との対話が重ねられながら、記録の継承や活用のあり方が議論されていること、そしてあおぞら財団がその拠点となっていることをたいへん心強く思っています。学ぶことは多いなど常々思っています。



松岡 弘之  
資料集編集委員/  
岡山大学文学部准教授

# 公害再生地域の西淀川で 継続した学びを

## 公害の経験から 未来を考える学び

西淀川は、過去には甚大な公害被害を受けましたが、公害患者、市民、企業、行政の協働のもと、様々な環境改善に向けた取り組みが行われています。あおぞら財団では、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点から、公害の経験から学び未来を作るための研修・教育の受入をしています。2022年度は、数か月〜1年にわたって西淀川をフィールドにした学びが2件行われました。

## 龍谷大政策学部清水 ゼミの取組み

龍谷大政策学部清水万由子先生のゼミが、西淀川をフィールドにしてゼミ活動を行っています。ロールプレイ「あなたの街で公害が起きたら」、タンDEM自転車でのフィールドワーク、公害患者の話などを体験した後、「アート」、「映像」「防災」の3つに分かれて活動を行いました。

ゼミではそれぞれの活動に関する参考文献を輪読したほか、アート班では「みてアート」の運営や設営準備に協力、映像班では公害患者の動画の作成、防災班では「クラフト

防災パーク」に出展しました。班別の活動は2022年度にひとまず終わり、2023年度はゼミ全体で西淀川のまちづくりに取り組み、11月のみてアートでゼミ活動の成果を出展する予定です。



みてアート作品の夜警（龍谷大）

## 公立大 「都市基盤計画特論」

大阪公立大学大学院「都市基盤計画特論」（吉田長裕准教授）の授業の一環として、大学院生が西淀川でワークショップやフィールドワーク、調査等を行った後に、最終的に



撮影ワークショップ（龍谷大）



クラフト防災パーク（龍谷大）

西淀川に対するまちづくりの提案をしました。この授業を西淀川で実施するのは今年で3年目です。

最終的には2つの提案が作成され、西淀川区長、区職員、患者会の参加のもとに発表会を行いました。「つながりが生まれる西淀公園に」をコンセプトにした多様な人々が参加できる地域交流イベントや運営方法に関する提案、「公害を乗り越え、クリーンな街へ」をコンセプトにマイクログモビリティ、排出量取引、環境に配慮した物流など幅広いモビリティに配慮した提案がなされました。



タンDEM自転車でフィールドワーク（公立大）

## 公害や環境再生について 考える研修の場を

いずれの大学の取組みにおいても、学生が作成した資料や提案からは、公害地域であった過去と住宅地と化した現在、そして未来にむけて何を考えるのかという様々な葛藤を感じる事ができました。あおぞら財団では、そうした葛藤も含めて、公害や環境再生についてリアリティをもった研修の場を今後提供していきたいと思えます。



授業の成果発表会（公立大）

## 協力者からひとこと

公害のない、住みよいまちをつくらうとする西淀川の人びとの努力から、困難に立ち向かう力を学び取ってほしいと思っています。西淀川公害の歴史もあおぞら財団の活動も多岐にわたるため、その全体像を伝えるストーリーがあればいいなと思います。ゼミでは、西淀川で学んだことを表現する作品をつくり「みてアート」に出展することを目標にしています。何度も通ううちに、少しずつ西淀川のまちに愛着を感じ始めているゼミ生たちです。



清水 万由子

龍谷大学政策学部

ディサービスセンター

# あおぞら苑

広告

あおぞら御膳

あおぞらの湯

**【お問い合わせ】**  
 TEL : 06-6475-0111 FAX : 06-6475-0114  
 URL : <http://aozoraen.com/>  
 運営 : 社会福祉法人 あゆみ福祉会

◆あおぞら苑(事業所番号 2791000090)  
 〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号  
 開所曜日: 月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771002173)  
 〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号  
 開所曜日: 月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日25人

2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

研究員  
谷内 久美子

# オンラインでつながろう！ HPアジアの環境活動でつながろう

事務局長・研究員  
藤江 徹



公害・環境問題を一緒に解決していただくために

あおぞら財団では、日本の公害経験を海外に伝え、交流し、公害・環境問題を一緒に解決していくために国際交流活動を行っています。新型コロナウイルスの往来が困難な中、2022年度はオンラインを通じた交流活動を行いました。

## 中国の環境活動を 知ろう オンライン講演会

お隣の国・中国における環境活動は日本国内ではあまり

知られていません。コロナ禍でロックダウン（都市封鎖）、日常活動や移動の制限などが行われてきた同国では環境負荷が減少する傾向がありましたが、近年、洪水や干ばつが続き、気候変動への対応も「適応（防災）」を重視した対策が取られ、未だ続く大気汚染問題や生物多様性への対応も国を挙げて進められています。今年度は、中国環境NGOの4名にオンラインを通じて報告してもらい、意見交換しました。

テーマは①ゴミ分別、②プラスチックゴミのリサイクル、③若者たちの海洋保全、④長江経済ベルトの環境保護と政策と多岐にわたり、同国の環境意識への高まり、NGO等



2022年10月15日 講演/趙璐氏 (成都根与芽環境文化交流センター) 「中国ゴミ分別取り組みの実践と探索」より



2022年10月15日 講演/王少蓉氏 (天津市西青区零盟公益発展センター) 「中国におけるプラスチック汚染対策とリサイクル状況について」より



2023年1月8日 講演: 歐陽志宇氏 (ブルーリボン海洋保護三亜学院ボランティアセンター) 「海洋を見守る若者実践」より



2023年1月8日 講演: 趙新元氏 (南通大学緑色方舟環境保護団体) 「中国長江経済ベルトの環境保護と政策」より



HP「アジアの環境活動でつながろう」  
<http://aozora.or.jp/kokusai>

## ベトナムからの便り ベトナム環境NGO 「Live & Learn」 の取組み

これまででもつながりのあるベトナム環境NGO「Live & Learn」のLe Hong Oanh氏より、同団体の環境活動について寄稿いただきました。Live & Learnは2009年に立ち上がったベトナムのNGO団体で、活動の中でも、①きれいな空・緑のある都市をもとめるアクションプログラム、②「青空を求む」若手科学者コンテスト、③グリーンスクール、④ハノイ市での生活ゴミ分別・削減の取組み、を紹介いただきました。

## 休眠預金を活用し、 日本に暮らす 外国人支援を行う 12団体を支援

あおぞら財団では、2020年度に引き続き、認定NPO法人日本都市計画家協会(JSURP)とともに、休眠預金活用事業(一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA))を活用し、「外国人と共に暮らし支え合う地域社会形成2」支え合いを豊かさにつなげるまちづくりとして、コロナ禍において日本各地で外国人を支える中間支援団体を公募の上、12団体を選定、資金提供と伴走支援を行っています。

## 協力者からひとこと



王 子常  
龍谷大学政策学研究所  
博士後期課程

「環境問題の解決」という道を歩き続けるには、ある程度の「動機づけ」が欠かせないと思います。日中の環境NGO・活動家が、お互いの取り組みの交流を通して、刺激を受け、励まされ合うことに感動しています。自然・歴史・文化背景が比較的近い東アジア諸国の民間同士の交流を深めることで、自国ないし地域的な環境問題の解決の一助になると信じています。



コミュニケーション促進のための  
プログラムに参加して  
楽しむ生徒たち



2022~2023年度事業、公募内容  
<http://aozora.or.jp/archives/38439>

医療費の支払でお困りの方 相談下さい。「無料低額診療」実施中 / 広告

～「いのちの平等」をめざして～  
差額室料をとらず、24時間365日 医療と介護

看護師・介護職 募集中!

WHO認証  
「地域健康増進支援事業所」  
認証施設

- ・西淀病院
- ・のぞと診療所
- ・千北診療所
- ・ファミリークリニックあい
- ・姫島診療所
- ・ファミリークリニックなごみ
- ・介護老人保健施設よどの里
- ・在宅総合センターらくらく
- ・社会医学研究所

公益財団法人淀川勤労者厚生協会 TEL 06-6471-0496 URL [www.yodokyo.or.jp](http://www.yodokyo.or.jp)

## 2022年度 あおぞら財団事業一覧

### 1 「環境・福祉・防災・文化・生業」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む

- 1. 地域再生: 地域資源の活用によるまちづくり (自主財源)**
- 2. 交通再生: 交通マネジメントセンター機能の強化**
  - 1) 西淀川における「人にも環境にもやさしい地域交通まちづくり」の推進 (自主財源)
  - 2) 自転車を活かしたまちづくりの推進 (受託元: (一社) 市民自転車学校プロジェクト (CCSP)、(株) 都市空間企画研究所)
- 3. 安全再生: 防災まちづくりの推進** (請負元: 西淀川区、自主財源)
- 4. 健康再生**
  - 1) 地域での呼吸ケア・リハビリテーションの普及 (助成元: 西淀川公害患者と家族の会、自主財源)
  - 2) 公害健康被害補償法被認定者の療養生活に係る実態調査業務 (請負元: 環境省)
- 5. 交流再生: 地域の交流 (コミュニティ) 再生・交流拠点の活用** (自主財源)
- 6. 文化再生: 西淀川の資源を活かした環境文化をつくる**
  - 1) みてアート (大阪市芸術文化助成金、共同募金配分金助成金、企業等からの協賛金)
  - 2) 大阪市西淀川区における新たな地域コミュニティ支援事業 (街角企画株式会社、有限会社OM環境計画研究所とともに受託、請負元: 大阪市西淀川区)

- 3) 新型コロナウイルス対応緊急支援助成 (休眠預金)
- 4) 市民参加・協働条例データベース更新作業 (請負元: 大阪大学)
- 5) 日本環境会議 (JEC) の会員・会費管理の業務

### 2 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる

#### 1. 公害教育・研修センター機能の強化

- 1) 講師派遣・研修受入 (自主財源)
- 2) 学校教育 (自主財源)
- 3) 教材開発および研修メニューの整備 (助成元: 地域環境基金、自主財源)

#### 2. 西淀川・公害と環境資料館 (エコミュージズ) の運営

- 1) 資料館運営 (自主財源)
- 2) 公害資料館連携 (自主財源)
- 3) 各地の公害地域の資料整理を支援する (自主事業)

### 3 公害経験を伝える国際交流

#### 1. 大気汚染経験等情報発信業務 (請負元: 環境省)

※実行委員事務局として実施しているものを含む

## 財政状況

(2022年4月1日～  
2023年3月31日)

収入	
資産運用益	2,715,691
会費	1,022,000
受託金等	28,945,010
寄付金	1,073,967
雑収入	7,038,344
基本財産取崩収入	3,500,000
積立金取崩収入	0
貸付金・保証金戻収入	0
合計	44,295,012

支出	
事業費	34,704,769
管理費	6,754,544
積立金取得支出	25,300
固定資産取得支出	0
貸付金・保証金支出	0
合計	41,484,613
当期収支差額	2,810,399
前期繰越収支差額	9,674,515
次期繰越収支差額	12,484,914

(単位: 円)

りべら No.162 2023年6月号 (年3回発行)

発行所: 公益財団法人公害地域再生センター (あおぞら財団)  
編集人: 谷内久美子

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4階  
TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885  
http://aozora.or.jp/ webmaster@aozora.or.jp

デザイン: (株)バード・デザインハウス  
会員の購読料は会費に含まれています。  
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



## スタッフツイッター 編集後記

「過去があるからこそ今がある」という当たり前のことをしみじみと感じることが多くなりました (年のせい?)。2022年度に取り組んだ内容も未来のあおぞら財団を形作る大事な要素になっていくんだろうと思います。様々な課題がありますが、より善い組織を目指して、一つひとつ積み重ねていきます。

広告



## ぜん息・COPDに関する 電話・メール相談室

環境再生保全機構が運営する「ぜん息・COPD電話相談室」は「ぜん息・COPD」に特化した内容を無料で相談できるものとなっており、全国から毎年1000件近くの相談を受けています。

今使っている薬やこれからの治療など、ぜん息、COPDに関する心配ごとやお悩みごとについて、専門医と看護師や保健師がお答えします。ご本人様はもちろんご家族の症状まで、どなたでもお気軽にご相談いただけます。

電話だけでなくWebでの相談もできますので、ぜん息やCOPDについて疑問や不安に思っていることなどがありましたら、ぜひ一度ご相談ください。



フリーダイヤル: 0120-598014 (こきゅうはい～よ)

受付曜日・時間: 月～土曜日 (祝日・年末年始を除く) 10:00～17:00

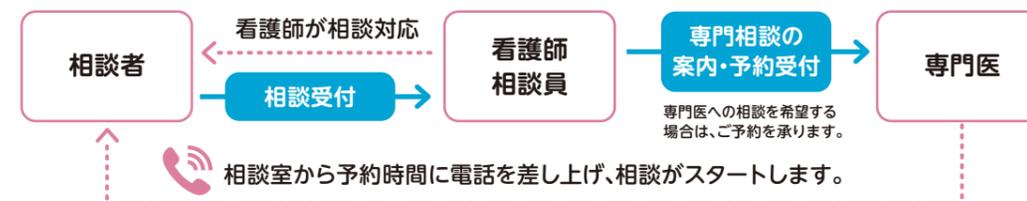
## ぜん息・COPDに関する電話相談室

小児ぜん息・成人ぜん息・COPDの専門医や看護師が無料でお答えします。

ぜん息・COPDに関する心配ごとや悩みごとについて、電話やメールでご相談いただけます。専門医による電話相談日はホームページ等でお知らせしております。あらかじめ電話で予約をお取りいただくと、専門医相談日の予約時間に相談室からお電話いたします。



### 相談の流れ



詳しくは **ぜん息 電話相談**

またはこちらから

<https://www.erca.go.jp/yobou/zensoku/service/tel.html>



環境再生保全機構は、環境問題に幅広く対応するための政策実施機関として設立された環境省所管の独立行政法人です。

環境再生保全機構では **様々なパンフレットも全て無料で配布しております**。提供しているパンフレットの一覧はホームページからご覧いただけますので、少しでも気になるパンフレットがあればお電話もしくはホームページからお申込みください。

<https://www.erca.go.jp/yobou/pamphlet/form/index.html>



独立行政法人 **環境再生保全機構** TEL:044-520-9504 (予防事業部代表) <https://www.erca.go.jp/>